

連珠っておもしろい

九段 河村典彦

● 第84回 ●

■ 卯坊さん追悼

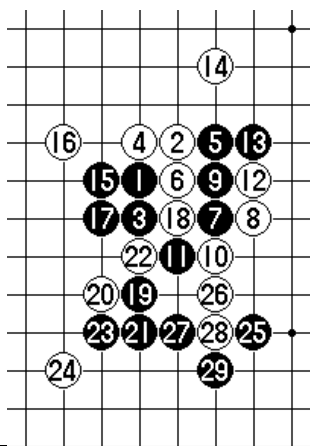
また追悼の号になってしまふのが至極残念であるが、卯坊さん（宮川さん）が現役理事のまま亡くなられた。現役理事としては昨年の小林さんに続くもので、ただでさえ人材不足の連珠社にとつては大打撃だ。

宮川さんと言えば、創君の方が有名？だが、創君とともに京都連珠会に通っていた時のことが思い出される。また、奥様には下の娘（当時1歳未満）を早川さんの奥さんと一緒に連珠会の時に預かってもらっていた。まさに一家揃ってのお付き合いであった。その後私は彦根に引っ越してしまつたので、直接対戦した記憶がほとんどない。しかし、昨年の王位戦で久しぶりに

打っていた。

示白 宮川

黒29にて白投了



宮川さんは阪本さんと共に「策士」のイメージが強い。銀月を得意とされているが、本局の防ぎはオーソドックスだった。白14が疑問で、黒15、17と組み、黒19が含みとなつてはどうしようもない。

創君は今や世界を飛び回っており、フェイスブックには三千人以上の友達がいる。当時の無口でおとなしい創君からは想像もできないが（一緒に遊んでいた上の娘も当時は無口でシャイだったが、今は性格が変わってしまったので子供時代の性

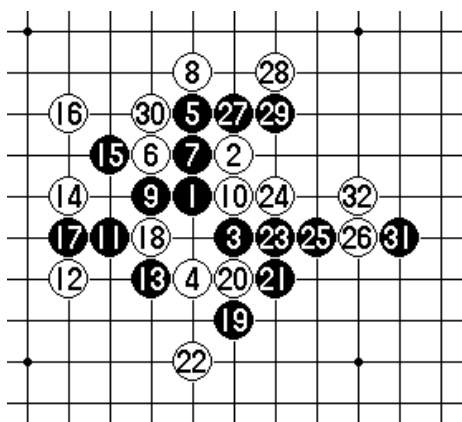
格はあてにはならないが）、創君にはまたいつか連珠を楽しんでくれたらいいと思つている。

さて、京都連珠会で四珠交替打ちを導入してもう1年以上経ち、大まかな傾向が見えてきた。四珠交替の世界の潮流は、「難珠型で白4を緩める」だが、京都では（あるいは日本では）「簡易珠型で上限八題を試す」という傾向が強い。小磯さんなどは進んでこの方針で打っている。なるほどこれも、新しい試みである。

今回は、畑さんとの京都リーグを題材としたい。浦月を指定されたので一旦交換し、白4と八題を指定された。八題ならさすがに白だろう、と白を取つたが、浦月だけあつて黒が打てる場所が多い。

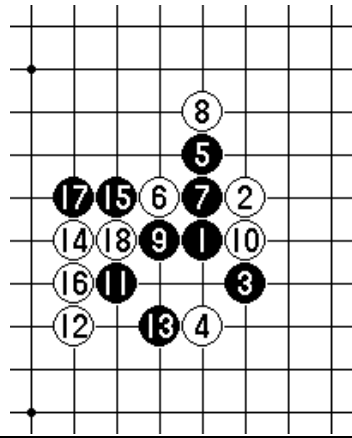
譜の黒5が入っていたのでこの5を指定した。白6、黒7、白8は当然で、こうなると先に剣先を止めてい

るのは大きいと判断した。

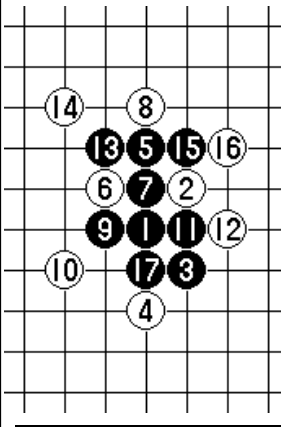


黒9は当然だろう。対して白10はここが急所だろう。黒11から13は予想通りで、白14でまあ防ぎ切れたと思つていた。白16は上辺を気にした防ぎなのだが、甘かったか？黒19と反対から叩く手が存外厳しく、次に20と打たれると四追いなので防ぐ必要がある。白20も甘く、黒21、23で瀕死の状態になってしまつた。時間に追われた畑さんが単に黒31と打つてしまつたため白32と打たれ

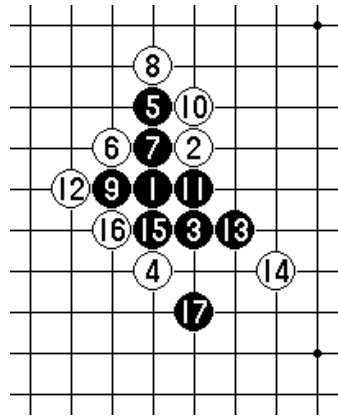
り手になってしまった。先に黒32と伸びておけば良かったし、単純な両ミセもあった。



白16では図のように一本三を引いておくとところだろう。良くなったと思っても、緩まないことが肝要だ。次に別の白10を考えてみたい。真つ先に思い浮かぶのが白10で、一見桂馬の網にかかっているようだが、

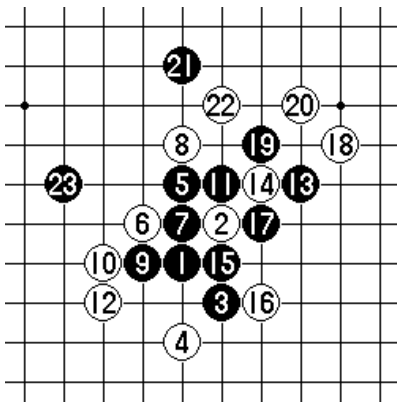


黒11から引き出して簡単に勝ちがある。

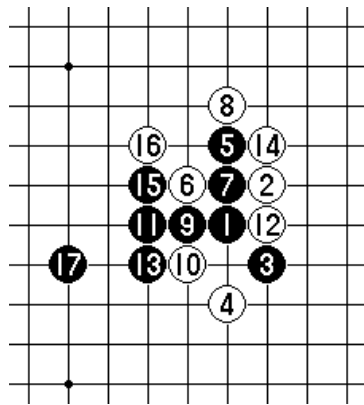


また、白10をこちらから押さえるのも、やはり黒11から順に引いて行って簡単な黒勝ちとなる。

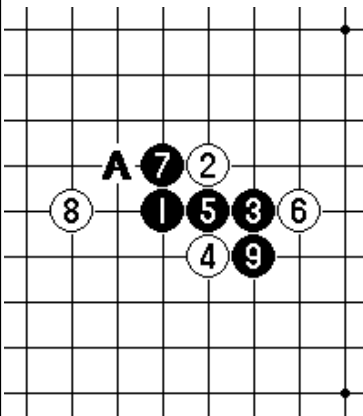
左図のように白10を黒9の左に押さえる手も有力だが、黒11から順に引かれ



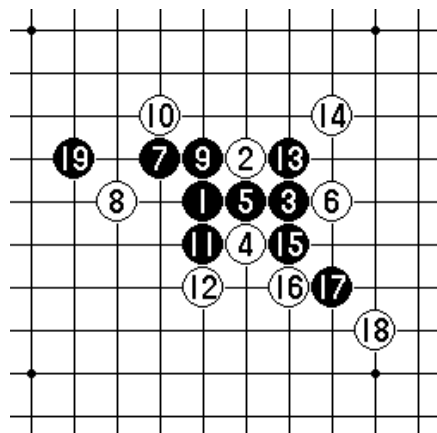
てしまう。白12を逆止め。黒勝ちを考えてもらいたい。さりとして白10とちよつと変わった手で防いでみても、やはり簡単に勝たれてしまう。



ここで原点に戻ってみよう。恒星定石で白6までに黒7と打つが、もし白8な



ら黒9から簡単に追い詰めである。今までの形は黒7を一路左のAに打つただけであるが、黒9と引けないのが大きい。というところで、黒9と打つ手も考えられる。



今度こそ白10と桂馬の網にかけられそうだが、今度黒19まで打たれると、今度は勝つのは容易ではない。白が勝つには黒に無理攻めをさせる必要がある。防ぐにも研究が欠かせない。四珠交替の防ぎは独特なので、しばらくは攻めも守りも研究合戦になるだろう。